



佐々木めぐみさん

幼いころからわが家には新聞がありました。朝食を食べに眠い目をこすりながら居間にいくと、朝刊がぼんつと私の座る座布団の上に置かれているのです。

当時、小学生の私は、四コマ漫画とテレビ欄、動物園の写真や満開の桜の写真ばかり眺めていました。お気に入りが見つければ写真だけを切り抜いて大事にしまっていました。時には写真をハート形に切り抜いて

居間の指定席には朝刊

折り紙に貼ったり、漫画のせりふを切り抜いて写真に貼り付けたりと、自分勝手に楽しみました。

いつからか、「どこの桜が満開なんだろう?」「この動物はどんな動物なんだろう?」という疑問を解消するため、つたないながらも文章をたどり始めました。漢字が読めなければ辞書を引き、場所がわからなければ地図を広げました。

大学生になり、知識も増えましたが、新聞を開くとまだまだ世の中は知らないことばかりだと、楽しくありません。

今日も私の座布団の上には朝刊と夕刊が置かれています。バイト終わりの夜更け、私の知らない世界が始まるのです。

(静岡文化芸術大三年)